

東芝テック（株）静岡事業所（大仁） サイトレポート情報

所在地： 静岡県伊豆の国市大仁570

敷地面積： 55,066m²、建家総面積：53,552m²、緑化率15.06%

設立： 1950年2月、従業員：921人（関係会社常駐含む）（2018年3月現在）

主要製品：POSシステム、電子レジスター等

ISO14001認証取得：1997年6月、最新更新年月：2018年1月
（ISO認証番号：JQA-EM6903）



ごあいさつ

当静岡事業所大仁サイトは、自然豊かな伊豆半島に位置し、富士・箱根・天城の山々を仰ぎ、狩野川の清流と緑豊かな自然環境に恵まれた立地条件の中で事業を行っています。

事業所では、POSシステム、電子レジスターなどの流通情報システム機器の開発・製造・サービスを行っており、これらによる環境に対する影響を低減するため環境保全活動を推進しています。



環境保全担当責任者 高井真仁

2017年度の環境の主な取組み

☆ISO14001環境マネジメントシステム

1997年6月に認証取得、2012年4月からIMSとして活動、12月に移転審査合格
2016年12月にISO14001/2015版に移行合格
2017年11月に更新審査実施、「登録されているマネジメントシステムについて、システムが維持されている」と評価。

☆省エネルギー

電力量目標 516.4万kWh ⇒ 実績 476.2万kWh

☆廃棄物の削減

廃棄物総排出量目標 750t ⇒ 実績 745.5t

☆環境調和型製品の開発

新商品において環境自主基準適合 ⇒ フレキシブルPOSターミナル: M-9000（エクセレントECP認証取得）
実績 ・高性能低消費電力のCPUや人感センサの採用によりアプリ待機電力：約45%削減（82W→43.5W）（人感センサON時：約55%削減）
・制御部の小型化と表示部背面への配置により本体容積：約15%削減、
本体質量：約35%削減（22kg→14kg）

新商品特定化学物質全廃 ⇒ 実績 全27シリーズ商品（オプション製品含む）RoHS、環境自主基準適合OK

☆全員参加・啓発活動の展開

環境月間・3R推進月間・省エネ月間による環境啓発活動、環境ニュース配布

☆地域との協調 べットボトルキャップ寄付、プルタブ寄付、社会貢献基金寄付、清掃、ボランティア活動の参加

製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介

【2017年度に開発した主な製品】

《省エネ》

高性能低消費電力CPUの採用や電源の効率化により、従来機M-8000（15型1画面）に対し、

- ・アプリ待機電力を約45%削減
- ・人感センサON時約55%削減

《省資源》

制御部の小形化と表示部背面への配置により、従来機M-8000（15型1画面）に対し、

- ・本体容積を約15%削減
- ・本体質量を約35%削減

《化学物質の削減》

2018年12月にRoHS2（特定フタル酸）対応予定



量販店向けPOSターミナル
M-9000

《省エネ》

高性能低消費電力CPUの採用や低電力部品の採用の取り組みにより、従来機QT-100に対し、

- ・アプリ待機電力を約35%削減。

《省資源》

部品の小型・軽量化等の取り組みにより、従来機QT-100に対して

- ・本体容積を約45%削減
- ・本体質量を約25%削減。

《化学物質の削減》

筐体カバーにハロゲンフリープラスチックを採用



専門店向けPOSターミナル
QT-200

環境方針

[IMS方針]

私たちは、当社経営理念「モノ創りへのこだわりと挑戦 いつでもどこでもお客様とともに」のもと、「統合マネジメントシステム (Integrated Management System)」を構築し、継続的な改善を図ることにより、以下を推進します。

1. すべての事業活動において、法令、規制、契約上の義務、その他の要求事項を順守します。
2. 私たちはモノ創りにこだわり、確かな品質・性能と高い利便性をもつ商品サービスをタイムリーに提供し、お客様の発展に貢献します。
3. 環境に配慮したモノ創りを通して、お客様及び自社の環境負荷を低減し、環境汚染の予防に努め、持続可能な地球社会の発展に貢献します。
4. お客様と社会の信用に応えるため、事業活動全般における情報に必要なセキュリティ対策を講じ、情報漏洩を防止します。
5. 「安全で快適な職場環境づくりと心身の健康保持増進」を念頭に、組織で働く全ての人の生命・安全を最優先した事業活動を行います。

東芝テック株式会社 静岡事業所(大仁) 環境基本方針

当事業所は、自然豊かな伊豆半島に位置し、富士・箱根・天城の山々を仰ぎ、狩野川の清流と文化を育む、魅力(ゆめ)ある伊豆の国市の住民と共存しています。
わたしたちはこの環境の中、「地球内企業」として、環境に配慮したモノ創りを通してお客様及び自社の環境負荷を低減することで持続可能な地球社会の発展に貢献します。
かけがえない地球環境を健全な状態で次世代に引き継いでいくために、事業活動と環境活動の融合を図り、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指し、「私たちの約束」である経営理念と企業の社会的責任に基づいて環境経営を実践します。
環境経営の重要な柱として、Green Management、Green of Product、Green of Process、Sustainabilityを掲げ、環境対応に積極的に取り組み、環境負荷低減に貢献します。

1. Green Management

- 1) 事業活動、製品、サービスに関わる環境側面について、環境影響を評価し、環境負荷の低減、環境汚染の予防、持続可能な資源の利用、気候変動への適応、生物多様性の保全等に関する環境目標を設定・推進します。
- 2) 監査の実施や活動のレビューにより環境経営の継続的な改善・向上を図り、定期的な見直しを行います。
- 3) 環境に関する法律・条例及び組織として受入れを決めた要求事項、自主基準などを順守します。
- 4) 社員一人ひとりが環境活動を推進できるように、環境教育・啓蒙活動を展開し、環境マインドを高めます。
- 5) 環境方針、環境活動について広く社内外へ積極的に公開します。
- 6) 行政、地域、関係団体などと協調し、社会全体の環境活動に参画・協力します。

2. Green of Product

- 1) 環境性能No. 1を追求し、エクセレントECPの創出と普及拡大をめざします。
- 2) グローバルに環境調和型商品を提供するため、環境に配慮した材料・部品のグリーン調達および省資源、省エネルギー、特定化学物質全廃設計によりライフサイクルを通じた環境負荷の低減を推進します。
- 3) 使用済み製品の回収・リサイクルや部品の再使用などで循環型社会構築に貢献します。

3. Green of Process

- 1) 地域性に配慮し、省資源、省エネルギー、水資源、化学物質の適正管理に取り組み、環境配慮した生産をおこないます。
- 2) 「モノ創り」や業務の効率化により、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現を目指します。

4. Sustainability

- 1) 優れた環境技術や製品の開発と提供、および地域・社会との協調連帯により、環境活動を通じて持続可能な社会へ貢献し、積極的な情報開示とコミュニケーションを行います。

2017年 8月1日

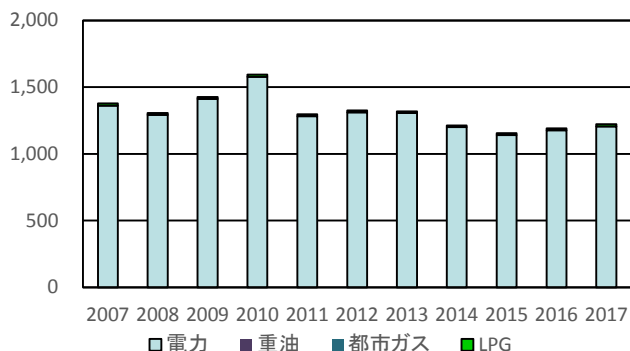
東芝テック株式会社 静岡事業所(大仁)

事業所長 石井 幸雄

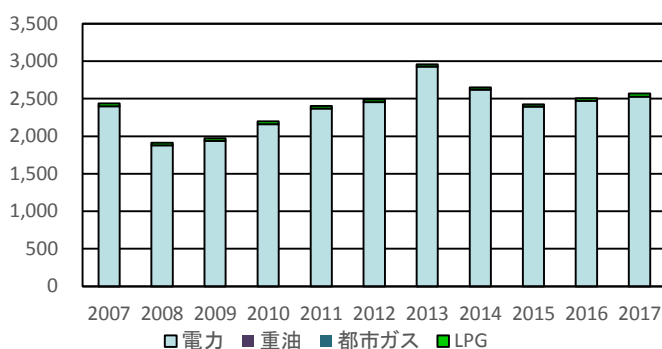


環境負荷データ

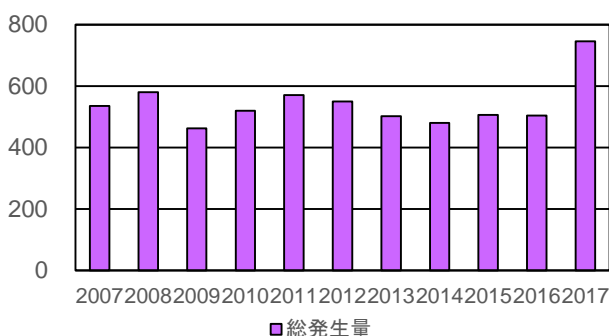
エネルギー使用量 (単位: KL)



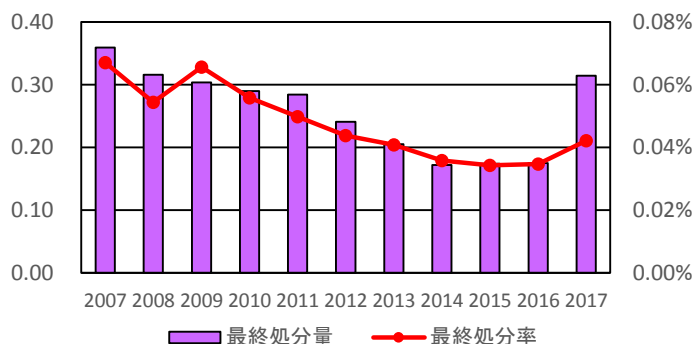
CO₂排出量 (単位: トン-CO₂)



廃棄物総発生量 (単位: トン)

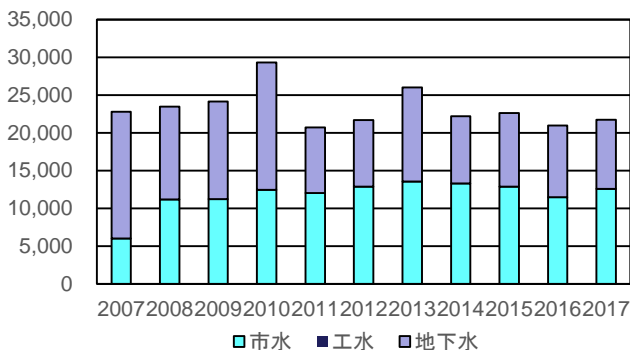


廃棄物最終処分量と最終処分率 (単位: トン, %)

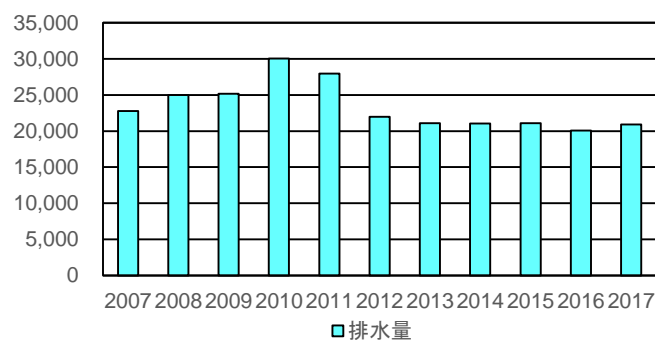


主な廃物名: プラスチック、木屑、ガラス屑、廃油等

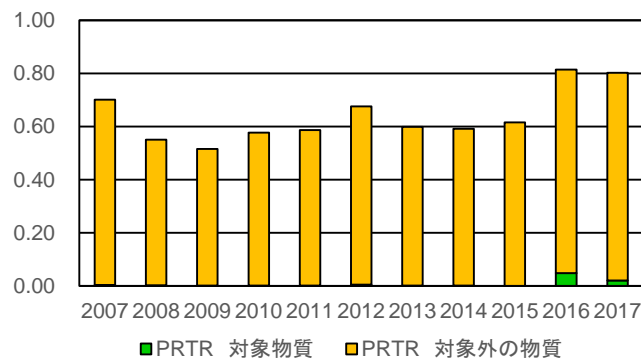
水の使用量 (単位: 千m³)



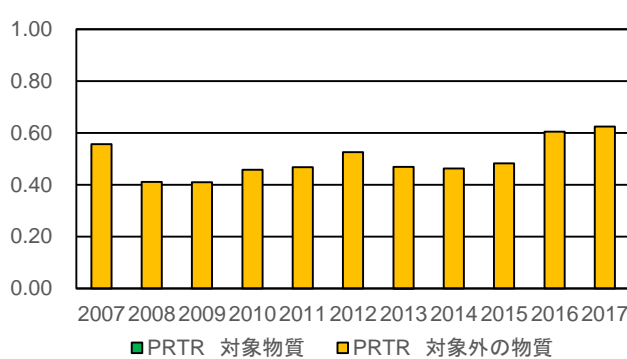
排水量 (単位: 千m³)



化学物質削減対象物質の取扱量 (トン)



化学物質削減対象物質の排出量 (トン)



主な化学物質: エタノール

遵法管理状況

<大気測定結果> 特定施設無し

| | 法規制値 | 自主管理値 | 実測値 | 測定頻度 |
|---------------|------|-------|-----|------|
| NOx (ppm) | 対象外 | 対象外 | 対象外 | 対象外 |
| SOx (Nm3/h) | 対象外 | 対象外 | 対象外 | 対象外 |
| ばいじん (mg/Nm3) | 対象外 | 対象外 | 対象外 | 対象外 |

<排水測定結果> 特定施設無し（自主測定）、河川（狩野川）へ放流

| | 規制値 | 自主管理値 | 実測値 | 測定頻度 |
|-------------|--------------|---------|------|------|
| 水素イオン濃度(pH) | 5.8～8.6（水濁法） | 5.9～8.5 | 7.2 | 年2回 |
| BOD (mg/ℓ) | 最大160（平均120） | 25 | 1.2 | 月1回 |
| COD (mg/ℓ) | 最大160（平均120） | 120 | 1.1 | 年1回 |
| SS (mg/ℓ) | 最大200（平均150） | 40 | 2.3 | 月1回 |
| 窒素 (mg/ℓ) | 最大120（平均60） | 60 | 0.5 | 2年1回 |
| フッ素 (mg/ℓ) | 8（水濁法） | 8 | <0.2 | 2年1回 |

<騒音・振動測定結果> 特定施設 騒音：空気圧縮機施設（コンプレッサ）、振動：空気圧縮機施設（コンプレッサ）

| | 測定場所：時間 | 規制値 | 自主管理値 | 実測値 | 測定頻度 |
|---------|---------|-----|-------|------|------|
| 騒音 (dB) | 敷地境界：昼 | 65 | 65 | 62 | 年2回 |
| | 敷地境界：夜 | 55 | 55 | 49 | 年2回 |
| 振動 (dB) | 敷地境界：昼 | 70 | 70 | 36.0 | 年1回 |
| | 敷地境界：夜 | 65 | 65 | 34.6 | 年1回 |

<その他測定結果> （下水道法：主な測定結果）特定施設無し（自主測定）

| | 規制値 | 自主管理値 | 実測値 | 測定頻度 |
|-------------|---------|---------|-----|------|
| 水素イオン濃度(pH) | 5.0～9.0 | 5.2～8.8 | 8.4 | 年4回 |
| BOD (mg/ℓ) | 600 | 550 | 43 | 年4回 |
| SS (mg/ℓ) | 600 | 550 | 52 | 年4回 |

<環境事故・指導指摘・苦情の有無>

| | 状況 |
|--------------------|----|
| 環境事故発生の有無 | なし |
| 工場周辺や地域での環境問題発生の有無 | なし |
| 行政からの指導・指摘の有無 | なし |
| 近隣住民からの苦情の有無 | なし |

環境コミュニケーションの紹介

<環境一斉アクション：プルタブ・ペットボトルキャップ寄贈>

当事業所は社会貢献活動の一環としてプルタブを容器から分別して集積し、それを関係団体に寄付しています。これは2回/年実施しており、今回は東芝グループグローバルで一斉に実施した「社会貢献一斉アクション」の参加に合わせ、プルタブを関係団体に寄付しました。

16年度では年間でプルタブ27kg（6.7万個）が集まりました。又、ペットボトルキャップでは約1,186kg（47.4万個）が集まり、これも各団体に寄付しています。

（実施概要）

- ・日時：2017年 6月5日 16kg（約4万個）
2017年12月5日 15kg（約3.7万個）
- ・ペットボトルキャップ寄付 随時 330kg/132千個；子供ワチ/165人分/年寄付した計算



<近隣幼稚園に読み聞かせ実施>

当事業所では、社会貢献活動の一環として地元の幼稚園や小学校に2011年度から読み聞かせや農作業の手伝いをボランティアとして実施してきました。2013年度は、生物多様性活動として静岡事業所でメダカを飼育し、孵化したメダカを近隣幼稚園に寄贈しました。

2016年度も引き続き計画的に幼稚園に訪れ読み聞かせを実施し、園児たちには大変喜ばれました。

（実施概要）

- ・日時：2017年5月16日、7月6日、10月26日、12月7日、17年2月7日 計5回



生物多様性の保全への取り組み

<絶滅危惧種 三島柴胡（ミシマサイコ）の栽培と黒メダカの繁殖>

当事業所では、生物多様性ビオトープ活動として、絶滅危惧種のミシマサイコの栽培に取り組んでいます。ミシマサイコは、セリ科の多年草で本州から四国・九州の日当たりの良い山野に自生していましたが、乱獲により絶滅危惧種となっています。

現在はすくすくと育ち、又、その状況を記録しています。

毎年冬季には種が3000個以上採取でき、

16年度から年度初めに従業員に種を配布し、自宅で栽培をして頂いています。

又、黒メダカの繁殖飼育もしており、従業員への癒しやお客様の工場見学のルートにも役立っています。



従業員自宅での栽培状況

環境目標

2018年度のサイトの主な環境目標

| 推進項目 | 指標 | 2018年度目標 |
|----------|-----------------------|-----------------------------|
| 地球温暖化の防止 | 電力量 | 470.7万kWh以下 (10年度比77.6%) |
| 資源の有効活用 | 総発生量 最終処分率 有価物率 | 510トン以下 0.04%以下 60%以上 |
| 化学物質管理 | 環境監査対象施設のリスク低減管理 | 環境監査評価 「A」維持 |

環境中期計画

サイトの主な環境中期計画

| 推進項目 | 指標 | 中期計画達成年 (2020年度)目標 |
|----------|-----------------------|-----------------------------|
| 地球温暖化の防止 | 電力量 | 467.2万kWh以下 (10年度比77.0%) |
| 資源の有効活用 | 総発生量 最終処分率 有価物率 | 508トン以下 0.04%以下 60%以上 |
| 化学物質管理 | 環境監査対象施設のリスク低減管理 | 環境監査評価 「A」維持 |